

第3次鶴ヶ島市地域福祉計画 鶴ヶ島市社会福祉協議会地域福祉活動計画 策定に関するこども意識調査報告書

鶴ヶ島市及び鶴ヶ島市社会福祉協議会では、市内小学校5年生と中学校2年生を対象に子ども達が福祉について考えるきっかけをつくり、子どもならではの新しい発想を計画に盛り込み、鶴ヶ島市の未来像（めざすまちの姿）を明らかにすることを目的としてこども意識調査を実施しました。

この回答結果を、分析を含めてここに報告します。

【調査概要】

- (1) 調査の対象：小学校5年生 528人、中学校2年生 541人
- (2) 回答総数：1,069件
- (3) 調査の実施時期：令和2年11月30日（月）～12月25日（金）
- (4) 調査方法：先生がクラスで配付し、その場で回答後、回収
- (5) 設問数：6問

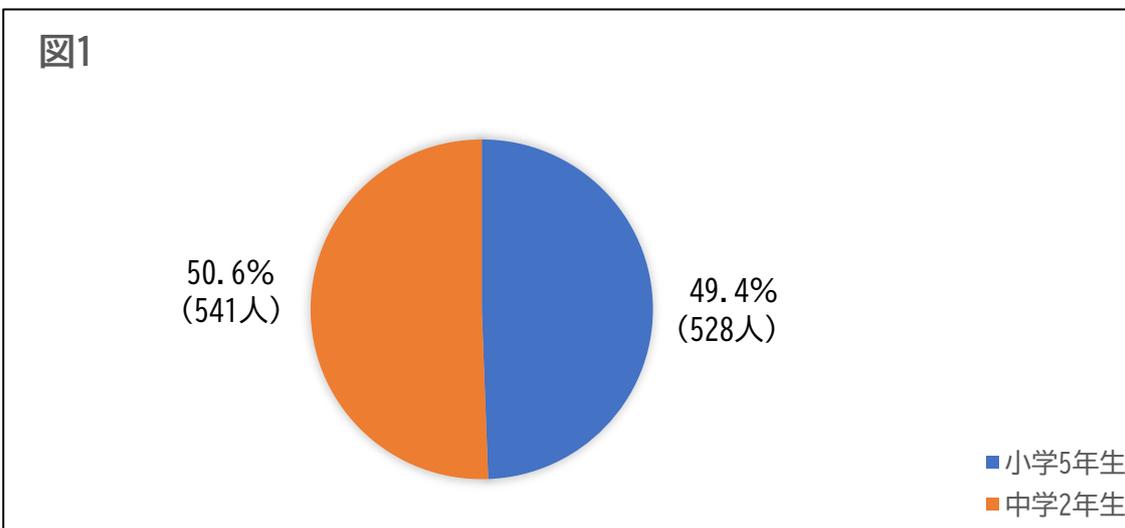
【調査結果の見方】

○統計処理上、小数第二位以下四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答では合計で100%を超えます。

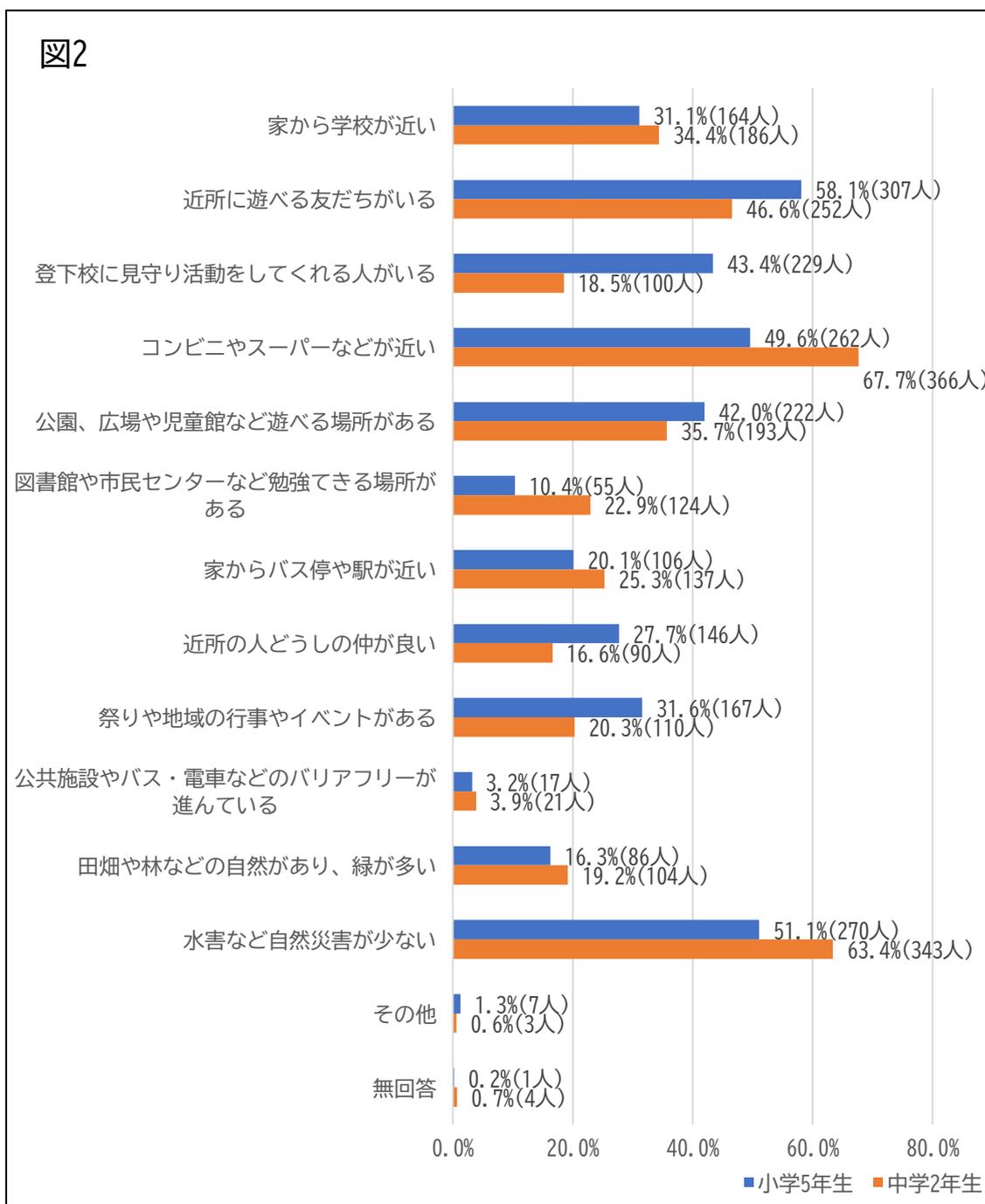
【対象者】

小学5年生 49.4% (528人)、中学2年生 50.6% (541人)

小学生と中学生はほぼ同数でした。また性別の回答欄は設けませんでした。



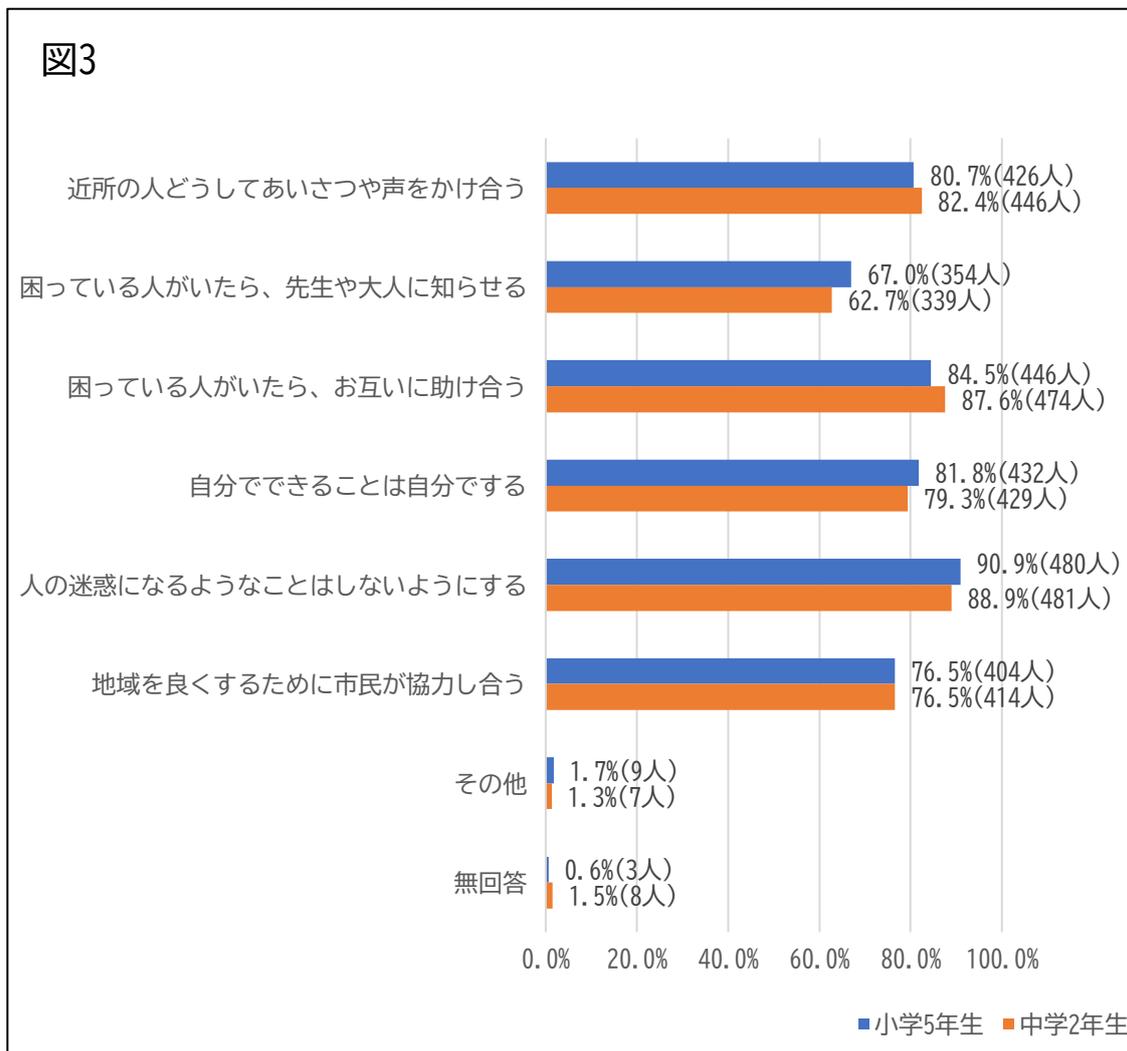
【問1】 お住いの地域で、“良いところ”（4つまで）



地域のよいところは、小学生では、【近所に遊べる友だちがいる】が58.1% (307人) と一番多く、次いで【水害など自然災害が少ない】51.1% (270人)、【コンビニやスーパー等が近い】49.6% (262人)、【登下校に見守り活動をしてくれる人がある】43.4% (229人) の順でした。

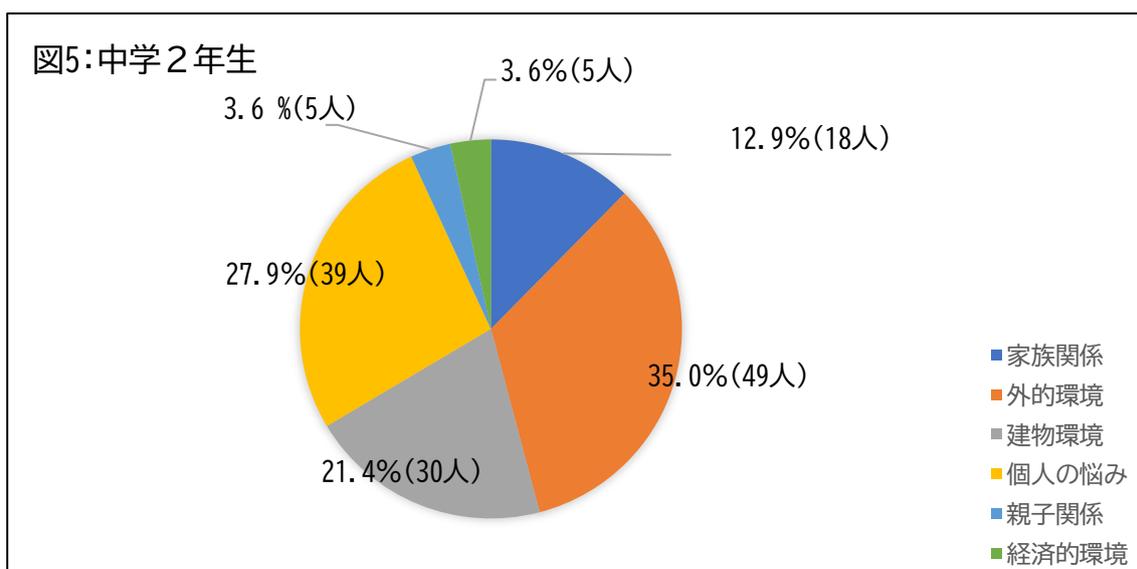
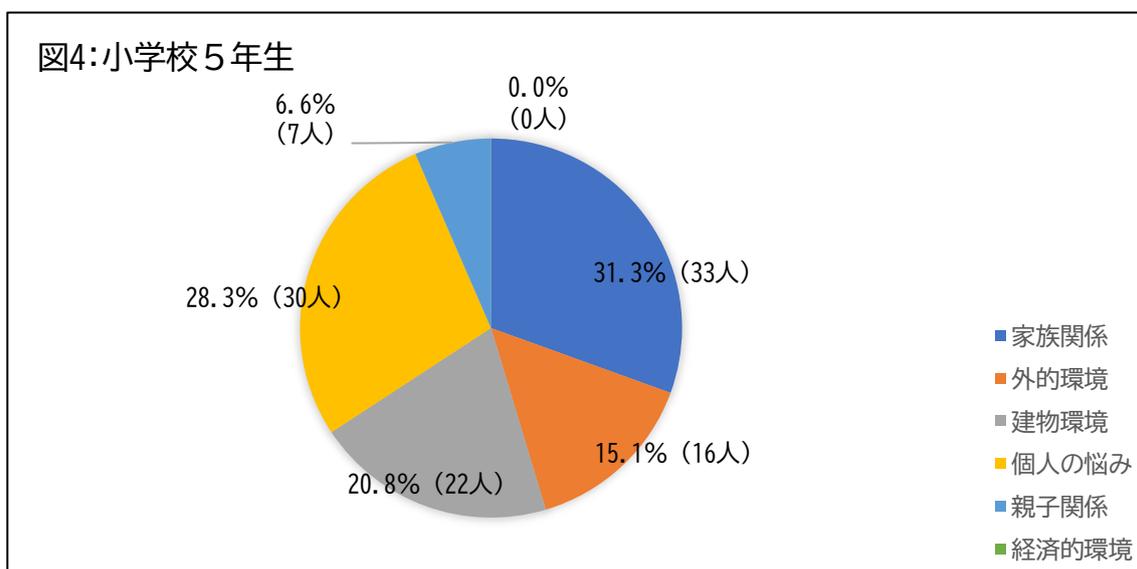
中学生は【コンビニやスーパーや近い】が一番多く67.7% (366人)、次いで【水害など自然災害が少ない】63.4% (343人)、【近所に遊べる友だちがいる】46.6% (252人) の順でした。

【問2】地域で、みんなが安心して暮らせるために必要なこと（複数回答）



小学生と中学生に有意差が見られませんでした。【人の迷惑にならないようにする】が90%前後と両者とも一番多い回答でした。次いで【困っている人がいたらお互い助け合う】、【近所の人同士で挨拶や声を掛け合う】が80%を超えていました。他の項目でも6割、7割の生徒が必要なことと思っていることが示されました。

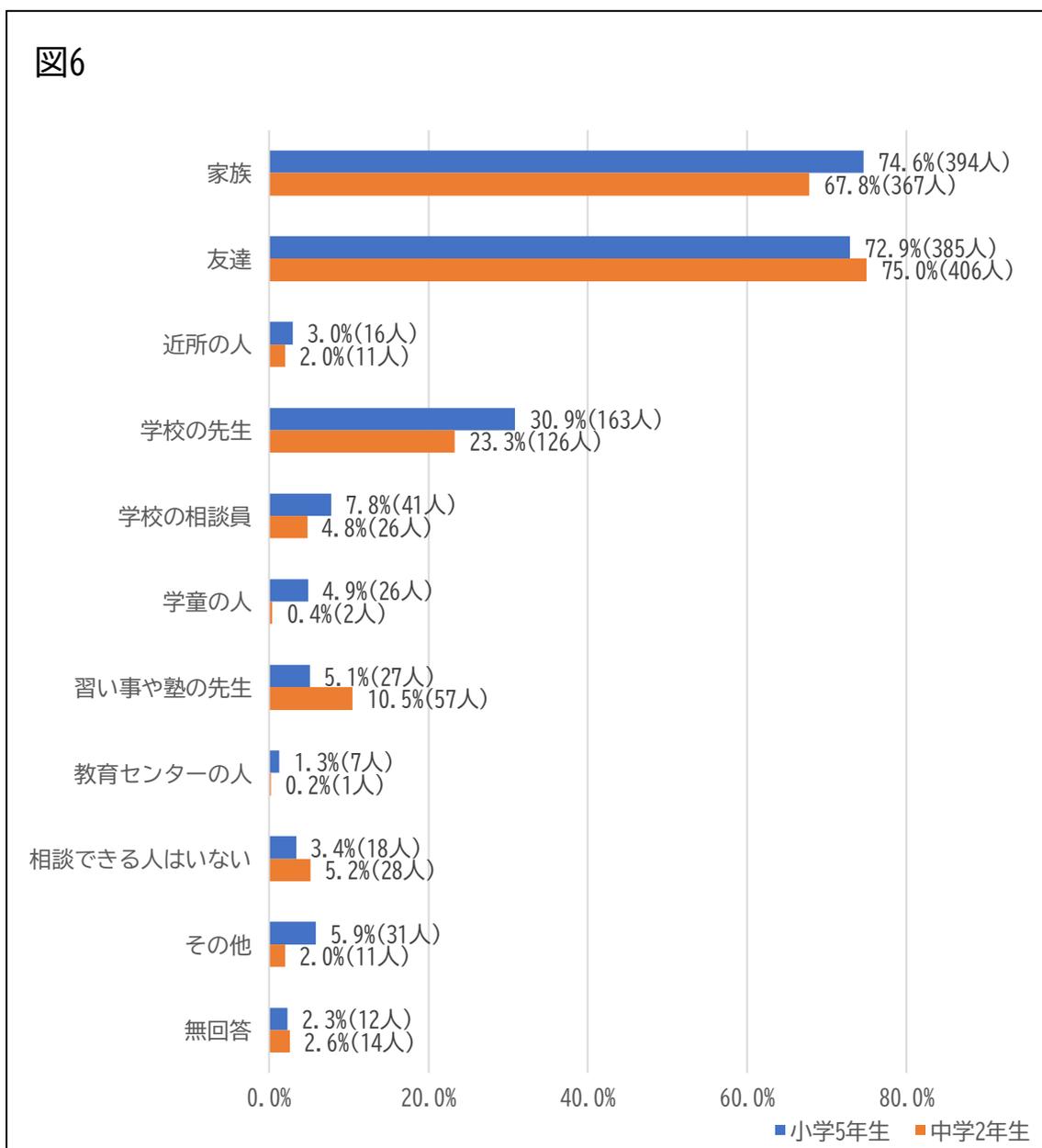
【問3】家での生活に中であなたが困っていることや悩んでいることはどんなことですか？（自由回答）



表現が同じ意味を指しているのをカテゴリー別に 6 つに分けました。小学生と中学生では困っている内容にはいくつかの項目で有意差がありました。小学生では、【家族関係】が 31.3%(33 人)と高く、中学生では【外的環境】が 35.0%(49 人)と一番高いことが示されました。【個人の悩み】は小学生、中学生ともほぼ 28%で同じでした。また【建物環境】も 21%前後と同じでした。

大きな変化をみますと、小学生は【家族関係(親子関係を含む)】は 31.3%(33 人)と最も多く、中学生は 12.9%(18 人)と小学生の半分以下でした。逆に【外的環境】は、中学生は 35.0%(49 人)と多く、小学生は 15.1%(16 人)と極端に差が生じました。サブカテゴリーをみますと、小学生はきょうだい喧嘩が多く、中学生は外部の騒音等で勉強の妨げとなる場所に困っていると思われます。

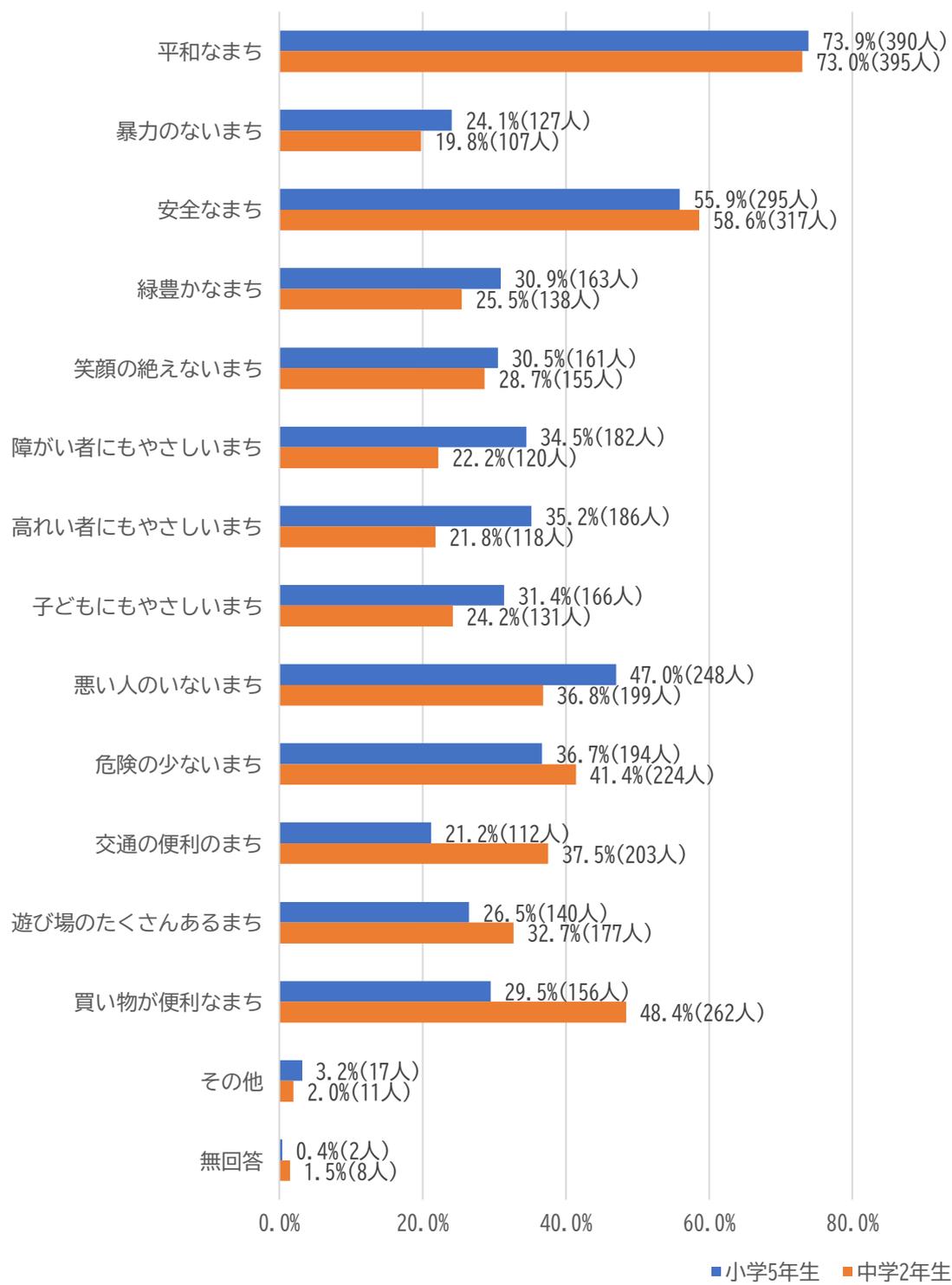
【問4】ふだんのなやみごとを誰に相談しますか。（複数回答）



小学生と中学生とも圧倒的に多いのは、【家族】と【友達】でした。小学生は【家族】74.6%（394人）が最も多く、次いで【友達】72.9%（385人）が多い回答に対し、中学生では【友達】75.0%（406人）が最も多く、【家族】は67.8%（367人）でした。中学生は親離れが進み、友達に相談する割合が高くなったと思われます。三番目に【学校の先生】が挙げられており、小学生は30.9%（163人）、中学生は23.3%（126人）でした。他の項目ではそれぞれ少数の中で、中学生では【習い事や塾の先生】が1割ほどいますが、小学生では【学校の相談員】が7.8%（41人）といることがわかりました。

【問5】 あなたの住みたいまちについて（5つまで）

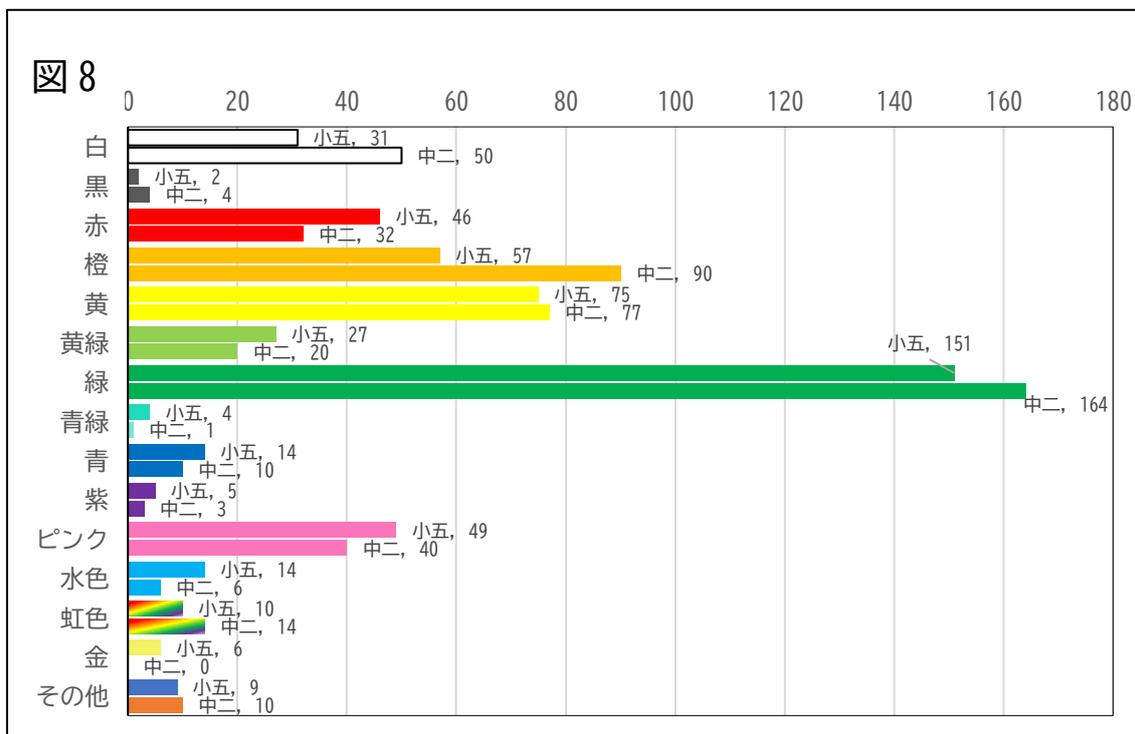
図7



<問5について (P7 図7) >

小学生 73.9% (390 人)、中学生 73.0% (395 人) とともに【平和なまち】を一番に挙げています。【安全なまち】は小学生 55.9% (295 人)、中学生 58.6% (317 人) と高く、次いで小学生では【悪い人のいないまち】が 47% (248 人) と高く、中学生では、【買い物が便利なまち】 48.4% (262 人) と高いことがわかりました。【遊び場のたくさんあるまち】を選択すると思っていましたが、小学生は 26.5% (140 人) と意外と少ない回答でした。外遊びが少ない現状として、スマートフォンやゲーム機による影響が考えられます。【悪い人のいないまち】は、小学生は 47.0% (248 人) と高い傾向にあります。中学生では、【危険の少ないまち】が 41.4% (224 人) とやや高い傾向が示されました。小学生と中学生の目線の違いがみられました。

【問6】福祉を色で表すと何色ですか？それはなぜですか？



- ・福祉を色で表した場合の小学生と中学生を比較しますと、小学生が中学生よりも多い色は、ピンク (9.8%)、赤 (9.2%)、水色 (2.8%)、金 (1.2%) でした。中学生が小学生よりも多い色は、橙 (17.3%)、白 (9.6%) でした。小学生、中学生がほぼ同数で表した色を多い順で示すと、緑 (小学生 30.2%、中学生 31.5%)、黄色 (小学生 15.0%、中学生 14.8%) となっています。
- ・小学生、中学生ともに10%以上と示した色では、緑、橙、黄色でした。
- ・色を選択したイメージでは、やさしい (276)、あたたかい (155)、明るい (133)、自然 (121)、助け合い (64)、平和 (55)、安全・安心 (45) が多く示されました。
- ・子どもたちの色イメージに直接反映しているものでは、赤い羽根共同募金 (30)、緑の募金 (18)、つるゴン (10)、つるワゴン (2) でした。他には、白い建物など建物でイメージする子どももいました。
- ・これらの結果から、福祉を色で表した根拠では、やさしい (276)、あたたかい (155)、明るい (133)、自然 (121)、助け合い (64) が明らかになりました。

	白		黒		赤	
小学校5年生	31人	6.2%	2人	0.4%	46人	9.2%
中学校2年生	50人	9.6%	4人	0.8%	32人	6.1%

	橙		黄		黄緑	
小学校5年生	57人	11.4%	75人	15.0%	27人	5.4%
中学校2年生	90人	17.3%	77人	14.8%	20人	3.8%

	緑		青緑		青	
小学校5年生	151人	30.2%	4人	0.8%	14人	2.8%
中学校2年生	164人	31.5%	1人	0.2%	10人	1.9%

	紫		ピンク		水色	
小学校5年生	5人	1.0%	49人	9.8%	14人	2.8%
中学校2年生	3人	0.6%	40人	7.7%	6人	1.2%

	虹色		金		その他	
小学校5年生	10人	2.0%	6人	1.2%	9人	1.8%
中学校2年生	14人	2.7%	0人	0.0%	10人	1.9%